

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成26年 1月22日更新

事務事業名		コミュニティ運営委員会助成事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也
	施策	21	生涯学習の推進					所属課	生涯学習課	担当者名	奈須 昌美
	基本事業	68	生涯学習団体の育成					所属班	生涯学習班	(内線)	2522
予算科目		会計一般	款10	項5	目1	事業連番10815	法令根拠	合志市社会教育関係団体活動事業補助金交付要綱	成果優先度評価結果	⑩	
									コスト削減優先度評価結果	⑥	
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	各コミュニティ運営委員会への補助金の交付
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	①各コミュニティ運営委員長からの補助金交付申請書を受理する。 ②申請書審査後交付決定となれば交付決定書を発行して各運営委員長からの請求書を受け、補助金を交付する。 ③事業が終了したら、事業実績報告書を受理し、審査後、確定となれば確定通知書を送付する。
【主な予算費目】	負担金補助及び交付金
【意見や要望】	
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO) 中央コミュニティ運営委員会、黒石コミュニティ運営委員会、野々島コミュニティ運営委員会、合生地区地域づくり運営委員会、南須屋区、須屋区、榎ノ本区、西須屋団区、東須屋区、堀川区へ助成		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 中央コミュニティ運営委員会、黒石コミュニティ運営委員会、野々島コミュニティ運営委員会、合生地区地域づくり運営委員会、須屋コミュニティ運営委員会へ助成
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア コミュニティや地区公民館への助成金額	円	区域内の戸数増加によるコミュニティ助成金の増
イ		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
市民		→ ア コミュニティ構成区域の市民
		イ
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
コミュニティ活動への参加者が増える		→ ア コミュニティ自主団体数
		イ
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
自主団体数が増えることは、生涯学習団体の育成ができていくことにつながるから		全体計画
		～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
①活動指標	ア	円	1,301,400	1,315,600	1,613,000	1,323,750	1,613,000	1,613,000	1,613,000	1,613,000
	イ									
②対象指標	ア	人	30,957	32,210	32,300	32,621	32,300	32,300	32,300	32,300
	イ									
③成果指標	ア	団体	140	145	150	146	150	150	150	150
	イ									
投資 入費 量	事業 費内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	1,301	1,316	1,350	1,324	1,423	1,613	1,613
	(A)事業費計		千円	1,301	1,316	1,350	1,324	1,423	1,613	1,613
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
人件 費	正 規 職 員 従 事 人 数		人	1	1	1	2	1	1	1
		延べ業務時間	時間	40	150	80	70	80	80	150
	(B)人件費計		千円	164	605	323	284	323	323	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,465	1,921	1,673	1,608	1,746	1,936	1,936	1,613

事務事業名	コミュニティ運営委員会助成事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 中央コミュニティにおいて新たな講座が開設されたため、前年と比べ増加したが目標には達成しなかった。	☒ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 平成24年度はわずかに目標を達成できなかったが、須屋コミュニティ及び野々島コミュニティにおいては新たな講座を開設する動きがあるため。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 コミュニティ活動に参加している住民は固定化しているの、それ以外の住民をより多く取り入れることにより成果向上の余地がある。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似事業が無い。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 コミュニティの事業はコミュニティ運営委員および地域住民の協力のものに行われており、不足する分を助成金にて賄っているため、削減は難しい。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 補助金の交付事務は、主に申請時や実績報告時の書類審査であり、事務量も多くないので削減は難しい。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 コミュニティ構成区における公民館数および戸数に応じて助成金を支給しているため、適正である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 補助金交付事業は市にしかできないから	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

コミュニティの活動が計画通り行われている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								